



居住水準の状況

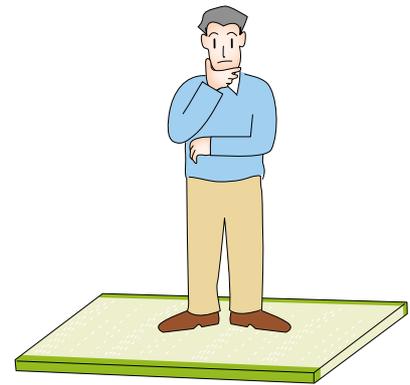
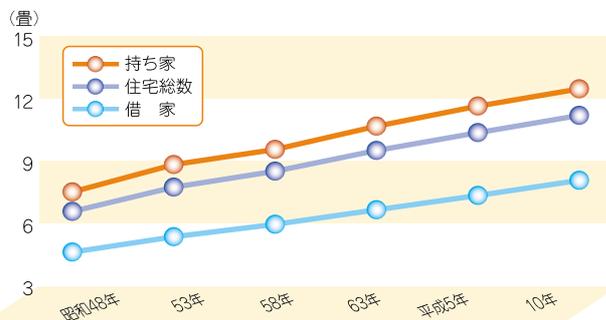
1人当たり
畳数は11.24畳、
昭和48年と比べ約2倍

平成10年の居住室の1人当たりの畳数は11.24畳で、これは昭和48年の6.61畳から一貫して増加しており、この25年間でおよそ2倍に達しました。

これを住宅の所有関係別にみると、持ち家では12.52畳と、平均を上回っていますが、借家では8.11畳となっています。

住宅の所有の関係別居住密度(1人当たり畳数)

全国(昭和48年～平成10年)



世帯の住居移動

最近20年以内に入居した世帯は、世帯全体の半数を占める

世帯主である家計を主に支える者について、現在の住宅への入居時期は、経済の高度成長期であった昭和46年以降、各期間10～20%前後を占めており、昭和56年以降で全世界帯の半数以上を占めています。

家計を主に支える者の現住居への入居時期別世帯数 全国(平成10年)

